

一八三九番

君がため 山田の沢に ゑぐ摘むと 雪消の水に
裳の裾濡れぬ

一八四〇番

梅が枝に 鳴きて移ろふ うぐひすの 羽白たへ
に 沫雪そ降る

一八四一番

山高み 降り来る雪を 梅の花 散りかも来ると
思ひつるかも

一八四二番

雪をおきて 梅をな恋ひそ あしひきの 山片づ
きて 家居せる君